

わたしたちの健康「年頭所感」

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様には、ご健勝で喜びに満ちた初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年一番の出来事は、3月11日に起きた東日本大震災であり、この津波を受けて発生した福島第1原発の深刻な事故です。あまりにも被害が甚大であったため、数々の重大なニュースもすべてこの未曾有の大震災に埋もれてしまいました。そんな中で一筋の光明と言えるのが、ワールドカップ女子サッカーにおける「なでしこジャパン」の初優勝です。体格や体力で圧倒する世界の強豪を相手に、勝利を信じて一心に立ち向かう大和撫子達の姿は実に健気で、震災で打ちひしがれた被災者や多くの日本人に感動と希望を与え、艱難辛苦に立ち向かう気力を久々に漲らせてくれました。

最近の話題をもう一題。昨年10月末、とうとう世界の人口が70億人を突破しました。一方、日本の人口はピークを過ぎ、これからは人口の減少と高齢化が加速していきます。現在65才以上の割合が2割ですが、60年後には4割になると言われております。労働人口が激減するわけであり、年金制度の継続には厳しいものがあります。物質的豊かさを求める時代には終焉が近づきつつあり、これから目指すのは成熟社会。何に幸福を見出すかについては、未だ模索の段階にあるといえます。

この世界人口発表の数週間後、ブータン国王夫妻が新婚旅行を兼ねて来日しました。被災した福島県への訪問を始め東京や京都の観光も楽しめましたが、聞くとところによるとブータンはヒマラヤ山脈の東部に位置する最貧国。この国が、震災支援として100万ドル（約8千万円）にも及ぶ義援金を贈ってくれました。これまで、日本の皇室との関係もあり友好関係も築かれてきているところですが、国王夫妻の笑みや立ち居振る舞いは穏やかでどこか違います。それは近年まで、一千年近い鎖国により独自の文化を継承してきた仏教王国としての歴史があること。また、先代国王からGNH（国民総幸福度）を国家目標として推進していることなどが影響しているようです。このため、日本では国民の1割しか生活に満足していないのに比べ、ブータンでは国民の9割が幸せを実感しているとの意外な情報がありました。

地球の資源は有限であり、世界中の国が経済を優先させてしまうと人口やエネルギー問題で早晚行き詰まります。そんな未来への漠然とした不安を日本だけではなく世界各国が抱き始めている現在、この度のブータン国王夫妻の来日により、幸福とは何か、本当の豊かさとは何か、を問い直す時期に来ていることを改めて教えられました。

心身の健康も幸福の尺度に大きく影響します。医師会としましても、市民お

一人お一人の幸福度の向上に貢献できるように地域の皆様の健康増進及び医療の普及を目指し、引き続き努力してまいる所存です。

市民の皆様の末永いご多幸を心より祈念申し上げ、新春のご挨拶といたします。

朝霞地区医師会 会長 浅野 修